



「優秀な若手博士研究者の飛躍に向けて」

講演概要

若手博士研究者の社会活躍のための育成・支援の具体的な取り組みは、平成18年度に始まった文部科学省委託事業「科学技術系人材のキャリアパス多様化促進事業」を発端としている。この事業をとおして、ようやく日本全体、各大学、また学会等で若手研究者の社会活躍に関連する動向の実態が明らかになりつつある。さらには、各大学において事業推進者たちが若手研究者、企業、研究指導者、大学執行部と直接話し合うことで、統計データでは見えない、意識のずれが明らかになっている。そして、今、若手人材育成事業は新たなステージに入りつつあると感じている。

北海道大学においても、H18 年度から本事業を受託し理学研究院に事業推進室(S-cubic)を設置して、基礎科学領域での博士研究者が産業界で活躍するための実情の把握、課題の抽出と対策を見出すべく試行錯誤を行ってきた。たとえば、会員制 web サイトによる博士研究者向けの就職情報の収集・公開、企業と研究者の直接交流の場(赤い糸会)の提供、個別就職相談などである。今年度より、大学の運営組織として「人材育成本部」を新たに設置し、これらの事業を全学に展開すると同時に、ボトムアップ型ではできないトップダウン型での施策について試行錯誤を開始している。

本事業を通して、現在の「博士研究者」が社会のいろいろな分野で活躍する基本的な能力を十分に持っているということを改めて確信している。その上で、博士研究者の社会活躍のためには、研究者・企業・研究指導者・大学がもっている「博士」に関する古い固定観念を打破することが重要である。この「固定観念の打破」は、当事者である研究者たちの能動的な活動によって急速に進むものと考えている。ここを乗り越えることができれば、若手研究者が安心して研究活動に没頭し、その総合力「博士力」を社会で発揮することができるように考えている。

講演者略歴

- ・ 昭和 60 年 北海道大学大学院理学研究科物理学専攻 博士後期課程修了(理学博士)
- ・ 昭和 60 年 出光興産株式会社 中央研究所入社
- ・ 平成 6 年 北海道大学大学院理学研究科 物理学専攻 助教授
- ・ 平成 14 年 北海道大学大学院理学研究科 生物科学専攻(高分子機能学)教授
- ・ 平成 19 年 総長室役員補佐(研究戦略担当)
- ・ 平成 21 年 人材育成本部 S-cubic 業務責任者